

田園環境都市おやまビジョン完成報告会 参加者アンケート集計結果

- ・回答数：170 名（紙での提出：117 名 ネット回答：53 名）
- ・表内の選択肢の表示は、回答者が多い順に並べ替え/丸数字は選択肢の番号

Q1 お住まいの地域を教えてください。

	回答者数	割合
① 小山市内	140	82.4
② 栃木県	20	11.8
③ 栃木県外	9	5.3

Q1 ①小山市内地区別人数

小山：45
間々田：23
大谷北部中部：16
豊田：9
桑：8
大谷：7
絹：5
生井：5
寒川：3
美田：2
中：2
大谷南部：1
そのほか：無記入

Q1 ②栃木県内

③栃木県外の内訳
栃木市：9
下野市：4
東京都：2
筑西市：3
宇都宮市：1
結城市：1
古河市：1
益子町：1
壬生町：1
高根沢町：1
そのほか：無記入

Q2 年代を教えてください。

	回答者数	割合
⑤ 50 代	48	28.2
⑥ 60 代	36	21.2
⑦ 70 歳以上	26	15.3
④ 40 代	24	14.1
③ 30 代	19	11.2
② 20 代	12	7.1
① 20 代未満	4	2.4

Q3 ●小山市内にお住まいの方、小山市へ通勤・通学をしている方への質問です。

本日の報告会に参加するまでの、あなたの、田園環境都市おやまビジョン策定の取組みへの関わりについて、当てはまるものの番号にマルをつけてください。（複数回答・可能）

	回答者数	割合
⑤「広報おやま」「おやまアサッテ広場」から情報を得ていた	53	31.2
③ 市民アンケートに回答した	47	27.6
④ セミナーやワークショップに参加した	47	27.6
⑥ 上記のどれにも該当しないが、関心は持っていた。	36	21.2
① 風土性調査アンケートに回答した	29	17.1
⑦ 上記のどれにも該当せず、特に関心は持っていなかった。	19	11.2
② 風土性調査のグループインタビューに参加した	9	5.3
⑧ その他	9	5.3

Q3 「⑧その他」と回答した人のコメント

- ・風土性調査の地区別報告会に参加した：2名
- ・3月に転入してきた：2名
- ・市民ビジョン委員：2名
- ・職場：1名
- ・風景社との交流から：1名

Q4 ●小山市外からお越しの方へ。本日、参加された理由を簡潔に教えてください。

- ・知人からの誘い
- ・勉強をさせてもらおうと思ひまして
- ・勤務地が小山だから
- ・小山市で働いているため
- ・ビジョンがどういうものか興味があった
- ・内容に関心があったため
- ・冊子作成の際に表紙コラージュの撮影をさせていただきました。出来上がって拝見するのが楽しみです。お世話になりました。
- ・仕事・・・小山市の未来を知りにきました。
- ・職員として
- ・関心を持って作成過程を注視していた
- ・公務員を目指しており小山市役所の受験も考えているため
- ・小山市職員から招待されました。ありがとうございます。
- ・業務で。
- ・仕事で関わらせていただきました。父のルーツが小山市豊田にあり、宮本に祖父母の家がありました。
- ・職場が小山市内のため
- ・小山市職員を希望しているため小山市のことをよく知りたいと考えたから
- ・学校のメールで今回の報告会があることを知り、小山市をもっと知りたいと思ったから
- ・ビジョンに興味があったため
- ・興味があったため
- ・知人が登壇しているので
- ・内容に関心があったため
- ・職場が小山市内
- ・田園環境都市推進課の方にご紹介頂いたためです。
- ・風景社から第6回目山口覚さんのセミナーを教えてもらい参加しました。その後、多くの対話を重ね出来上がったビジョンに興味があったので、参加させて頂きました。
- ・小山市に興味があるから。

Q5 本日の報告会に参加しての感想をお尋ねします。A B C それぞれの質問について、今のお気持ちに近いもの1つを選んで番号にマルをつけてください。

A：ビジョン全文について

	回答者数	割合
① 全文を、出来る限り読んでみようと思った。	99	58.2
② 関心があるところは読んでみようと思った。	53	31.2
③ 報告内容には関心を持てたが読んでみようとは思わなかった。	6	3.5
④ あまり関心が持てなかったので、読まないと思う	2	1.2

B：今後への関心について

	回答者数	割合
① 今後の小山市のまちづくりに関心がとても高まった。	86	50.6
② 今後のまちづくりに関心が少し高まった。	71	41.8
③ あまり関心が持てなかった。	4	2.4

C-1 今後行われていく取組みへの参加について

	回答者数	割合
② 関心がもてるものだけ参加したい。	57	33.5
① 出来る限り参加したいし、積極的に関わりたい。	56	32.9
③ 参加はできないが、自分の生活や活動の中でできることを。	39	22.9
④ あまり参加する気持ちになれなかった。	4	2.4

C-2 今後の取組みに参加したい方、関わりたい方で、情報を受け取りたい方は、お名前と連絡先をご記入ください。回答は任意です。個人情報とは市からご案内を差し上げる場合にのみ使用します

23 名が記入してくださいました（リストは非公開）

Q6 あなたのご意見をお尋ねします。第5章の「行政分野別ビジョン」に示した 17 の項目を書き出します。この 17 の分野の中から、30 年後の未来に向けた取組みで、重要度が高いと考えるものを、選択肢から3つ選んで、番号にマルをつけてください。（＊3つ以上回答している場合も、全て反映させています）

	回答者数	割合
③こども・子育て	71	41.8
①健康・医療	53	31.2
②福祉・高齢	53	31.2
⑫インフラ・公共施設	40	23.5
⑦農業・食	37	21.8
⑪都市と田園が共存する地域デザイン	31	18.2
⑬公共交通	28	16.5
④教育	24	14.1
⑥環境・生態系	24	14.1
⑯コミュニティ	21	12.4
⑭防犯・防災・消防	20	11.8
⑧歴史・文化財・伝統行事	19	11.2
⑰行政運営・市民などとの共創	13	7.6
⑤生涯学習・スポーツ	11	6.5
⑩産業と循環型社会	10	5.9
⑮人権・多文化共生	10	5.9
⑨文化芸術	7	4.2

Q7 本日の報告内容などについての「ご感想」「情報提供」がございましたらご記入ください。今後の取組みに活かしてまいります。

＊個人情報を抜いて、全回答を分類して掲載しています。

A：報告会のあり方についてのご指摘

- 調整まとめ策定は立派だが、策定結果の報告会と思って参加したが、第一部は策定までの担当者の感想ばかりで関心が持てなかった。策定者のうちの会議かと思った。
- 第1部、第2部共に楽しい雰囲気、時間を感じさせなかった。各地区の特色（風景、イベント等）をスライドで紹介いただけると、より良かった。
- 今回、聞いたかったのは、アウトプットであり、プロセスでは無い。ウェルビーイングとい

言葉が最後までわからなかった。意味の不明確な英語を使われると興味が削がれてしまう。

●3年間調査の結果、今後の計画が何も無い、残念。

●空回りしている感じがあった（やや不愉快と感じた）

●第二部に関して長い期間をかけて作ったものであると思うが、仲間内感が強く不快感を感じた。完成報告会の内容が分からず冊子を購入し理解しようと思う。

●もっとビジョンの中身についての説明がほしかった。報告会に参加して身になるものがなかった。おもしろおかしくやるのは悪いことではないが身内ノリが多すぎて楽しめなかった。地区ごとの報告会も興味はあるが今回のような感じなら参加しないと思う。手話がついていたのはとてもよかった。青い紙での意思表示で参加型にしたのは、よかった。

●内容が理解できなかった

●文化センターを使って報告会を行ったものの、本当の意味で市民にまで浸透しているのかが疑問です。参加者も職員や登壇者の知り合いがいる人ばかりのイメージでした（誰も知り合いがいなそうな人は1人お会いしましたが…）。11地区もあり具体的な話をする時間はないと思いますが、例えば、参加者には報告書を配って（無料もしくは割引価格で）、それを見ながらどういう風にまとめたのか解説をするのもいいと思います。また、「これが終わりではなくこれからがスタート」「市民のためのビジョン」という事はいいいと思うのですが、それが（ビジョンを作ったこと自体知らない人たちなど）本当の市民に伝えてほしいと思いますが、一部のグループで完結している感じがしました。

●報告会の時間を、もう少し長くともってもらいたい。

B：報告会での報告内容へのご指摘や感想など

●無関心と言われましたが蚊帳の外なだけです

●田んぼの学校は、中小が最初では？ なぜ穂積に・・・

●私にとってのウェルビーイングについては、武さんの、ふと気づく「前より良くなっている」が近いです。

●とても良い内容の報告会で満足しました。特に、ウェルビーイングに近づくためには、不幸にならないこと（間々田の方の発言）は共感しました。

●一部の高橋さんの冒頭にもあったように、ビジョンが誰しも自分ごとと捉えられることが良いとおっしゃったこと、確かにそうだと思います。私の出身地は小山市外ですが、出身市も同じような実情分析、課題抽出と未来の意識づくりをしてほしいと思ったくらいです。このような活動の市外へのアピール、発信をお願いします！私も市役所の友人に紹介します！

●楽しく参加できました。小山市内、全体に関心が持てました。今後、小山の取り組みに市民の皆さんがどうやって行ったら関心を持って関わってくれるのか、気になります。

●小山市を細分化した情報は初めてのことと思います。とても地域性に興味が高まりました。「小さな自慢」が自民一丸となり「大きな自慢」につながっていけば良いですね。

●30年後の未来への投資として、本質的に人を大切に育てることに注力してもらいたいし、そ

ういった活動をしている人や企業、コミュニティに行政側も積極的に関わり、互いに盛り上げて行って欲しいと考えます、

●ウェルビーイングのキーワードをより多くの市民が日常的に口にできることで、ビジョンの浸透がなされるのかなと思った。

●自分の住む地区とその他の地区という考えから 11 地区それぞれ違って、人がいて、小山の宝があると思った。あまりいったことがない地区に行ってみようと思った。

●一つでも参加して実感していくことかなと。外に対して期待するより、一緒に歩むことと思いました。今日、こうして参加して考えたり聞いたりしたことは、それ自体が well-being！内側が充実してきたこと、感謝です。

●大変勉強になりました。子育ての話が多かったと思いますが、高齢者や障がい者にもスポットを当てて欲しかったな—とありました。自分のウェルビっていることも考えてみようと思います。ありがとうございました。

●おやまビジョンを作る上での苦労やポイントについて話を伺うことができとても良かったです。座談会では各地区の特性や現状について知ることができて、良かったです。

●またよろしくお願いします

●30 年後の希望と現実のギャップに頭を悩ませています！各組織の担い手がいなく、行事を続けるのが困難。確かに「無関心」はなんとかしたい。

●2 部のパネルディスカッションが特に楽しかった。1 部の内容も短いなかで、プラン作成の道のりが少し見えたため、関心を持ちやすくなったと思った。16 万人のアンケート回答は自分も見たいと思った。

●小山愛を感じました。

●地区ごとに分解することも大切ですが、やはり、人は色々なところで活動しているもので交流もしています。年齢が高くなれば、やはり活動するのに人の力に頼らなければならず、おーバスとかの増便も必要なのかなあと。特に寒川地区の方の悩みが気になりました。

●ビジョン作成委員が知り合って連携していく基礎ができたということが、今後の取り組みの財産になったと思う。

●登壇者の皆様、長時間の参画お疲れ様でした。皆様の熱量を感じました。

●楽しく参加させていただきました。

●多くの市民と共有できるよう PR 活動に取り組んでいただきたいと思います。期待します、人の豊かさは健全な身体が基本と思います。

●見ていて楽しかったです。あっという間でした。地元を理解する良い機会でした。

●小山市は 30 年後もこうあって欲しいです。そのために一人一人が協力してウェルビーイングを目指しましょう。

●ウェルビーイングを推進することは非常に結構であります。一歩進めて栃木県を動かし、日本を動かすビジョンを持って将来の県や国を動かすことを望む。

●暑い中、お疲れ様です！とても楽しかったです。この世界的な暑さの中で 1970 年代当時の

世界の知識人たちは、地球の未来に対して、警告のシグナルを出していました！！（「ローマクラブ」毎日のように各新聞に取り上げられていました）本当に地球の生態系や環境に将来はあるのでしょうか？特に子供達、若い人の未来がとても心配です。ありがとうございました！私の大好きな小山市！若い人々の未来に幸あれ！

●各地区の皆さんが、生き生きと自分の言葉で思いをお話ししていたことが印象的でした。ありがとうございました。小山市を代表するような芸人さんのような掛け合いもグッドでした。

●ビジョン策定に関わったみなさんの熱意が伝わりました。立場を超えて真剣に考え議論することが大切だと感じます、

●みなさんの地域愛が伝わってきました。また、私自身も小山市について勉強することができて参加して良かったです。

●人口数の維持には外国人に来ていただくのが必要だと思います。現在も市役所の1階には多くの外国人の方が手続きをしています、将来はもっと必要（必須）になると思うので、誘致・優遇など検討をお願いします。世界では人増えてます、足りないなら借りましょう。

●市民の皆さんが「本当に」参加してビジョンを作ったということがよく伝わる楽しい報告会でした。これからの小山市も注目してまいります。

●小・中学生向けのおやまビジョンがあっても良いのかなと思いました。

●県外からの参加でしたが、今回の報告会を通してより小山市を知れることが出来て、私も小山市で将来を過ごしたいと強く思いました。参加して良かったです。

●熱意のある討論にとても感動しました。小山市のことを真剣に考えていてとても素晴らしいと思いました。

●本日を開催するのにかなり大変だったことをしりました。携わった方皆さんには頭が下がります。今後、何か気になることがあったら、情報提供していきたいと思いました。

●小山市の地区地区の市民の意識が一様でないが、先ず市民が行政に、行政が市民に、お互いに話し合える仕組みを経験したことは今後の大きな力になる。着実な活動を共に推進したい。

●本報告会に参加し、30年後を目指したwell being 思考考え方に強い共感を覚えた。30年後のあるべき福祉、子育て、環境、等々を考える時、今、現在のより良い姿や状態が大切だということ

●これまで田園環境都市といったことは、関心がなかったが今後はもう少し関心を持ちたいと思った。バランスのよい街というのがテーマかな。

●3年半もの歳月をかけて、市民との作り上げた計画。本当に凄いです。これからの取り組みが楽しみです。

C：ビジョン内容についての意見や提案

●本ビジョンのキーワード・ポイント：①担い手課題 ②市街化調整区域の解消・アンバランス・活性化 ③調整区域への規制緩和 ④自然保全・ウェルビーイング→一人ひとりのライフライン ⑤行政・市民・議員（全員）の連携・協力が必要

●市内を 11 地区に分ける考え方でいいのか？人口減少が明確な時に、今後の調整区域の管理はどのように進めていくのか？

●報告内容と直接関係はないが、多文化共生という言葉には違和感がある。外国人の義務と責任を明示しないまま配慮や多様性を過剰に推進することは危険であり、日本文化の尊重を前提とした外国人の自由や権利の範囲を制度的に明示する必要があると考える。

●Code for Oyama（コード・フォー・オヤマ）の者です。報告会の会場で、このアンケートの回答を送信しましたが、おやまビジョンの全編を読みましたので、あらためて回答します（この form は入力画面では改行が表示されず、送信しても正しく読み取れるかどうか不安ですが）。

まず、おやまビジョンで良かった点は、自然を回復して将来に引き継ぐことを目指し、そして、各地域の風土や特徴をていねいに記録し、共有できたということです。そして、これからの課題は、やはり、第5章「行政分野別ビジョン」第6章「おやまビジョン」を、どう具体化するかだと思います。つまり、、、 a. コンパクト・プラス・ネットワーク に、どうやって移行していくか（まず、このコンセプト自体、合意形成が難しそうですが） b. 人口減少、農業の担い手不足、インフラの老朽化への対応 c. 防災（首都圏からの避難者の受け入れを含めて） これらを、どのように効率的に進めていくか。そこで質問ですが、「産学官民おやま R&D」というのは、なにか具体的な動きは、あるのでしょうか？ Code for Oyama（コード・フォー・オヤマ）として御協力できることは、ないでしょうか？ たとえば、防災関連で、街の中の危険箇所のマッピング（下記サンプル（1））、避難所のバリアフリー情報（下記サンプル（2））、あるいは、史跡、文化遺産のデジタルアーカイブとマッピング等、いろいろな可能性があると思います。

以下、補足説明とリンクです。 ・code for Oyama Home Page <https://code4oyama.org>

・サンプル（1）「防災マップアプリ（避難所へ移動する時の危険箇所などをマッピング）」 表示機能 マップ表示 リスト表示 キーワード検索 フィルタリング 入力 form から、写真、コメント、位置情報をアップロード <https://oyamactsample-wavp.glide.page/dl/d0a5f4>

このイベントで使いました。「オープンデータ日 2024「自分の防災マップを作ろう！」」

<https://oyamaru.net/codeforoyam2024/>

・サンプル（2）「避難所のバリアフリー情報アプリ（+運営中の各避難所の情報共有）」 プレゼン「あなたのための避難所ガイド」 [https://docs.google.com/presentation/d/15j3ZuInHOdo3B-](https://docs.google.com/presentation/d/15j3ZuInHOdo3B-Xb6F9CL0enB01kjAs9wcisyg97nqc/edit?slide=id.g32b5c001476_1_23#slide=id.g32b5c001476_1_23)

[Xb6F9CL0enB01kjAs9wcisyg97nqc/edit?slide=id.g32b5c001476_1_23#slide=id.g32b5c001476_1_23](https://docs.google.com/presentation/d/15j3ZuInHOdo3B-Xb6F9CL0enB01kjAs9wcisyg97nqc/edit?slide=id.g32b5c001476_1_23#slide=id.g32b5c001476_1_23)

3 アプリ「あなたのための避難所ガイド」 <https://barrierfree-shelter-guide.glide.page/dl/6471c6> 表示機能 マップ表示 リスト表示 キーワード検索 フィルタリング（各避難所が対応している災害種別、トイレの詳細情報、等）（現状では、詳細情報は、3つの学校のみ入力済み） 入力 form から、各避難所のホワイトボードの写真等をアップロード このイベント（ハッカソン）で作成して、優秀賞（3位）を頂きました。「宇都宮オープンデータラボ 2025」 <https://www.city.utsunomiya.lg.jp/shisei/johokokai/opendata/1039750.html>

まだ、アプリ等のプロトタイプを作ってみたという段階なので、実際にこれらを使えるものにしていくには、いろいろ

な分野の方々の協力が必要です。

●正直に申し上げて、田園環境都市おやまビジョンの内容に違和感を感じています。「ウェルビーイング（Well-being）」を掲げながら、そのビジョンに最も反している現実が三峯地区に放置されているからです。三峯地区は小山市が「ウォークアブル区域」に指定しているはずですが、しかし実際には歩道はなく、市道 235 号線に至っては歩行者空間は外側線の約 50cm のみ。狭い道路を 1 時間に約 300 台相当の車両が通過し、ただの乗用車に限らず改造車・代行業・カーステ騒音車・大型車が昼夜問わず猛スピードで走り抜けています。これのどこが「全ての市民がより良く暮らせる、つまり個人の権利や自己実現が保障され、身体的・精神的・社会的に良好な状態を目指す」市なのでしょうか。市長は「まずはグリーンベルトで様子見」と言いましたが、それも 9 年放置してやっと実施されたもので、しかも交差点部は何故か外側線すらないのに未整備のまま。なお市道 2022 号線の南においてはグリーンベルト実施から 5 ヶ月ほど経過しましたが、スピード超過もグリーンベルトへの侵入も変わりません。また、2024 年 8 月 27 日に行われた「交通課題対策関係機関調整会議（三峯周辺地区）」から間もなく 1 年ですが、以降会議もなく何も進んでいません。市長はきっこう言うでしょう。「通過車両のドライバーも市民だ。三峯住民だけを特別扱いできない」と。しかし、ここで言いたいのは「誰かを特別扱いせよ」ではありません。「歩行者の最低限の安全と安心を確保する」という、まちづくりにおける最も基本的な順序を守ってください、ということです。

「全ての市民」という言葉の中には歩行者や子どもも含まれているはずですが、実際には“車で通過する利用者”の速度・快適性・利便性ばかりが守られ、歩いて暮らす市民の命や静穏は蔑ろにされています。この現状にメスが入らず、永久に“今後の検討”止まりとなるのであれば、それはもはや「誰一人取り残さない」まちづくりではなく、「声の小さい人を置き去りにするまちづくり」です。小山市の策定したビジョンが本気なのであれば、まずは市道 2022 号線・235 号線の抜け道利用を止めるための実効的対策としてポール設置・クラック・速度抑制などを今すぐ実施すべきです。綺麗な言葉だけのまちづくりでは何も変わりません。計画を実現する覚悟があるのか、市としての本気度をこの道路においても示していただきたいと思いました。

●「風土性調査」から、過去と現在の課題は見えてきたことと思います（素晴らしいと思います）。しかし 30 年後の未来像がどうしても見えてきません、残念です。何かがたりていないような気がします・・・。「チーム」とか「連携」とかということだけではなく、「精神的にも社会的にも満たされた状態」であるとすれば、一人ひとりと（或いは）どう「関わる」ということが大切だと思います。小山市は明治に鉄道が開設し、交通の要衝（当時は）として急速な発展をしたと思います。一方鉄道沿線の生活は一変したと思います。今でも、線路の向こう側に友達がいても小さな子供などは簡単に行くことが出来ません。「ウェルビーイング」って何と問い直したいと思います。未来の姿が見えてこない一つに、「行動や判断」の基準が共有化されていない事があるかもしれません。中島みゆき「糸」の世界 だけではなく、三菱地所「次」の世界を描いてほしいと思います。